

# 民俗文化

第26号 近畿大学民俗学研究所

2014-7



# 民俗文化

第二十六号



### ①三遠南信最奥地域の川と山

(浜松市天竜区水窪町付近、2010年6月、藤井撮影)

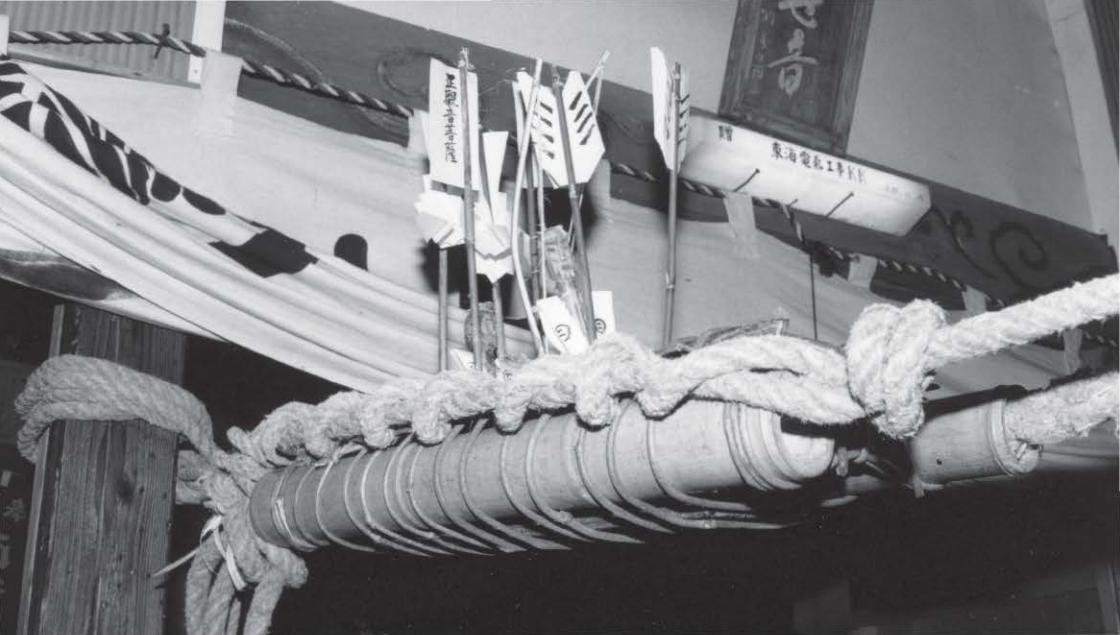
愛知県・長野県・静岡県の県境付近。愛知県側から撮影。手前は愛知県豊根村富山、天竜川の対岸は静岡県水窪町、写真左側は天竜川の手前と対岸ともに長野県天竜村。天竜川の対岸にはJR飯田線が通り、一番奥の高い山の向こう側には、遠州(右側)から、信州(左側)にかけて秋葉街道が通る。

### ②西浦の田楽

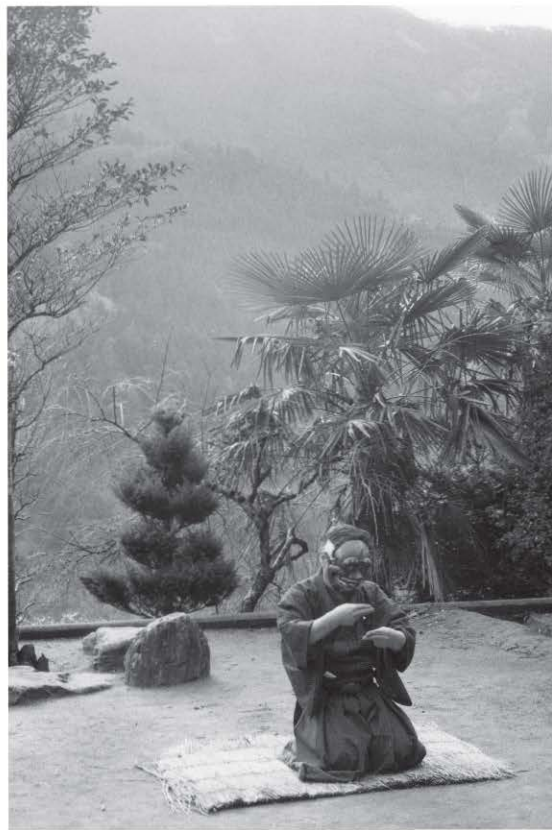
(浜松市天竜区水窪町西浦、1976年旧1月、渡辺撮影)

田楽舞。チリ、チリ、チリと口拍子でピンザサラをすりながら舞う。別当は観音堂で心経を唱える。いよいよ仏・神の出現である。





③西浦の田楽（浜松市天竜区水窪町西浦、1976年旧1月、渡辺撮影）  
御舟観音の灯明を北ダイ（大松明）に運ぶ。張り渡した綱の上をすべって火を移す。



④西浦の田楽  
（浜松市天竜区水窪町西浦、1976年旧1月、渡辺撮影）  
夜を徹しての舞の最中、「しずめ」は、招いた神々を送る舞という。面をつけて印を結ぶ。



⑤寺野のおこない  
(浜松市北区引佐町寺野、1974年、渡辺撮影)



⑥川名のひよんどり  
(浜松市北区引佐町川名、1974年、渡辺撮影)  
ガラんしずめ。



⑦川名のひよんどり  
(浜松市引佐町川名、1974年、渡辺撮影)  
稲村の舞。



⑧懐山のおくない  
(浜松市天竜区懐山、1974年、渡辺撮影)  
いなばら。



⑨新居宿の旅籠  
(湖西市新居町新居、2007年5月、藤井撮影)  
新居開所の西側にある旅籠のひとつ。紀州藩の御用宿となっていた。

⑩新居の開所  
(湖西市新居町新居、2007年5月、藤井撮影)



⑪浜名湖の潮干狩り  
(浜松市西区舞阪町、2007年5月、藤井撮影)

⑫鯉井  
(浜松市西区館山寺町、2008年5月、藤井撮影)







⑬遠州大念仏 (浜松市大積妻町、1981年7月、渡辺撮影)



⑭浜松祭り  
(浜松市、1992年5月、渡辺撮影)

⑮浜松駅(右)とアクトタワー(中央)  
(浜松市中区、2014年3月、戸井田撮影)

東西の大都市、浜松市は楽器やオートバイの町として知られてきた。浜松駅近くのアクトシティには、ハーモニカをあしらった地上45階建ての「アクトタワー」があり、市のランドマークとなっている。





⑩見附天神標祭り  
(磐田市、1975年旧8月、渡辺撮影)

⑪掛塚屋台祭り  
(磐田市、1980年10月、渡辺撮影)



⑫可麗斎  
(綾井市久能、2011年5月、藤井撮影)

11代目の住職・仙崎等麟和尚は、浜松城主であった徳川家康と親密な関係にあり、家康の前で寝てもよいと言われたため、寺院名を可麗斎とした。江戸時代、可麗斎は駿河・遠江・三河・伊豆(一部)の僧録司となり、約2500の曹洞宗寺院を管轄した。火伏の神である歌葉總本殿三尺坊大権現の道場としても知られる。

⑬小国神社田遊び  
(森町、1993年1月、渡辺撮影)  
代かき牛。







㉙山郷地藏山本宮山遷拜所供養祭  
(森町天宮、1996年5月11日、藤井撮影)

㉚山郷地藏山本宮山遷拜所供養祭  
(森町天宮、1996年5月11日、藤井撮影)



㉛山郷地藏山本宮山遷拜所供養祭  
(森町天宮、1996年5月11日、藤井撮影)

㉜山郷地藏山本宮山遷拜所供養祭  
(森町天宮、1996年5月11日、藤井撮影)

山郷山（通称、地藏山）は、本宮山（遠江一宮・小国神社の奥宮）を北に臨む丘陵の南端に位置する。この山が開発されるにあたって、平成8年（1996）に発掘調査がおこなわれた。その結果、厩橋の先塚には6世紀の古墳が存在することが分かり、頂上には江戸時代の祭祀遺跡が確認されていたことが判明した。江戸時代の祭祀遺跡としては、「大日如来」と刻まれた砥石2年（1674）建立の石塔が立つ大塚と、その背後に埋まっていた湖出岩（女隠石）が発見された。山の開発前には石塔の前で、江戸時代以前の祭祀を復元する形で神仏合同の供養祭がおこなわれた。この地域の聖山である本宮山から神を招いて供養し、「神仏混合の庶民的儀式」としておこなった。供養祭に参列したのは、地元の天宮神社の宮司、蓮華寺住職、万松院住職、地元・天宮の住民などであった。天宮神社に伝承される十二殿舞楽の罹見舞も奉納された。その後、山は開発されたため、大塚と女隠石は天宮神社境内に移された。





㊤掛川大祭りの大獅子（掛川市大須賀町、1976年10月、渡辺撮影）



㊤三熊野神社大祭

（掛川市大須賀町、1997年4月、渡辺撮影）

「神子抱き」、「子授けの神事」と呼ぶ。  
ご神体の化身「おねんねご様」を抱く。

㊤清明塚

（掛川市大須賀町、2011年5月、藤井撮影）

この地にやってきた安倍清明は、村人の要請により、津波防止のために、小豆色の小石を積み上げて祈禱した。これ以後、この村には津波の被害はなくなったという。村人は清明をたたえて清明塚を祀った。また、清明塚に参ると癒癒にかからないといい、疫病予防のために赤い石を1個借り、お礼のときには2個返す。返した石がどんな色でも赤い色に変わるといふ。







## ⑳桜ヶ池のおひつ納め

(御前崎市佐倉、1999年9月、渡辺撮影)

皇円は、修行の末、弥勒菩薩に会うことを発願し、嘉応元年(1169)に桜ヶ池に入定した。のちに、皇円の高弟の法然が桜ヶ池を訪れ、師の安泰と五穀豊穡を祈り、赤飯を納めたお櫃を池宮神社にひとつ、桜ヶ池にひとつ納めた。以後、親鸞などが受け継いで、現在もおこなわれている。



## ㉑御前崎海岸でのワカメ採り

(御前崎市御前崎、1999年2月、藤井撮影)

御前崎ではワカメを採ってから、海岸の砂をつけて干し、砂を洗い落として食べる。

## ㉒燈明堂

(御前崎市御前崎、2013年2月、藤井撮影)

御前崎沖は難所であったため、寛永12年(1635)に幕府によって燈明堂が設置された。建物が強風で飛ばないように、床下には石が詰められた。火の番は、村人が毎晩2人ずつ交代でおこなった。明治初年にカンテラ灯台になるまでこの燈明堂が使われた。現在の建物は復元されたもの。



### ⑫猫塚

(御前崎市御前崎、1999年2月、藤井撮影)



### ⑬ねずみ塚

(御前崎市御前崎、1999年2月、藤井撮影)

寺の住職が流されているネコを見つけ、寺へ連れ帰った。10年ほどのち、旅の僧侶が泊まったとき、寺のネコと隣のネコが、僧侶にばけていた大きなネズミを運治した。息絶えたネコを脚ったのがネコ塚である。同じく息絶えたネズミを、村人は海へ捨てようとしたが運べなかったため、村人は捨てて帰った。その後、改心したネズミは、海上安全と大漁を約束したため、海の守り神として手厚く祀った。



### ⑭歴敷林

(御前崎市御前崎、2013年3月、藤井撮影)

風が強い御前崎では、歴敷を取り囲む歴敷林が発達している。マキが多いが、モチ、シイ、イマメ(ウバメガシ)などもある。常緑樹で葉持ちがいい植物が植えられている。

### ⑮大根の収穫

(御前崎市御前崎、2013年2月、藤井撮影)

御前崎は切り干し大根の生産が盛んである。







⑭波津の御船神事  
(牧之原市波津、1975年9月、渡辺撮影)

⑮子うまれ石  
(牧之原市西萩間、2011年4月、藤井撮影)  
大興寺の住職が往生した直後に、裏山から丸い石が生まれ出るという。この丸い石は、住職の墓石に使われる。



⑯大井川  
(牧之原市、2011年4月、藤井撮影)

⑰徳山の盆踊り  
(川根本町、1982年8月、渡辺撮影)  
鹿ん舞。





㊸島田宿大井川川越遺跡

(島田市、2014年3月、戸井田撮影)

「箱根八里は馬でも越すが 越すに越されぬ大井川」と歌われた渡津集落。大井川は駿府城の外堀とされて架橋が禁じられたため、大名・庶民を問わず馬や人足に担がれて渡河しなければならなかった。遺跡には人足が詰め所としていた「香宿」などが復元されている。

㊹「檀三わらじ」(復元)

(島田市、2014年3月、戸井田撮影)

大井川の川越人足が履いた特別なわらじ。縁にひもを通すつくりになっており、渡河中に足の裏に小石が入っても自然に石が取れるしくみになっている。



㊺大高榎登台

(島田市、2014年3月、戸井田撮影)

登台(運台、運台)は、江戸時代、人をのせて川を渡るのに用いた道具。写真は「大高榎」とよばれる登台で、大名などを籠のままのせ、4本の担ぎ棒を十数人がかりで担いだもの。島田市指定の文化財となっている。

㊻島田大祭

(島田市、1980年10月、渡辺撮影)







④② 滝沢の田遊び

(藤枝市滝沢、1975年2月、渡辺撮影)

④③ 「◎瓦」 渡邊隆之氏と大橋景月鬼瓦下絨  
(藤枝市平島、2013年11月、網撮影)

「◎瓦」 渡邊商店には、「利」金左衛門商店で鬼師として名を馳せた大橋景月関連の資料が多く保管されていた。これらは清水瓦の歴史を綴くうえで貴重な資料である。



④④ 焼津漁港

(焼津市、2014年3月、戸井田撮影)

焼津港は日本有数の漁港であり、かつお・まぐろの漁獲高は全国一。旧港と新港があり、写真は大型魚船が接岸する新港で、主にかつお・まぐろが水揚げされる。

④⑤ 津波タワー

(焼津市石津、2013年8月、藤井撮影)





④⑥ 荒祭  
(焼津市、1984年8月、渡辺撮影)



④⑦ 宇津ノ谷集落  
(静岡市駿河区、2014年3月、戸井田撮影)  
宇津ノ谷の峠道がいよいよ険しくなるあたり、古い町並みが今に残る。江戸時代には難所の一つだったが、現在では国道1号の宇津ノ谷トンネルであつという間に峠を通過する。

④⑧ 丸子宿の丁子屋  
(静岡市駿河区丸子、2014年3月、戸井田撮影)  
東海道丸子宿(鞠子宿)は江戸から数えて20番目の宿場で、宇津ノ谷峠を控えた丸子川沿いにある。芭蕉の句に「梅若菜 丸子の宿の とろろ汁」があるが、写真の丁子屋は今に続くとろろ汁屋である。







#### ④登呂遺跡

(静岡市駿河区登呂、2014年3月、戸井田撮影)

弥生時代の集落・水田遺跡。第二次世界大戦中、軍需工場の建設に伴って発見され、1952年、国の特別史跡に指定された。手前の水田は遺構を復元したものだが、実際には地下およそ1mの深さにある。

#### ⑤駿府城址の巽櫓

(静岡市葵区、2014年3月、戸井田撮影)

駿府城は1585年、徳川家康によって築かれた名城。1635年に焼失したが、1989年、巽櫓が復元された。城跡は現在、駿府城公園となっている。



#### ⑥静岡県庁

(静岡市葵区、2014年3月、戸井田撮影)

正面は県都のシンボル静岡県庁の旧庁舎、右は高層の新庁舎。駿府城址に隣接し、静岡市役所もすぐ隣にあるという今昔の官庁街である。

#### ⑦静岡県立大学

(静岡市駿河区、2014年3月、戸井田撮影)

草薙の文教地区にある公立大学。旧静岡薬科大、静岡女子大などが統合し、1987年に開学した。写真中央の重物には、富士山と羽ばたく若鳥がシンボライズされた校章があしらわれている。





㊸久能山東照宮（上）とその門前（静岡市駿河区、2014年3月、戸井田撮影）  
 徳川家康を祀った最初の神社。麓の一の鳥居からは1159段の石段があり、つづら折りの急勾配がつづく。袴裾豪華な社殿は、2010年、国宝に指定された。



㊹石垣いちごの観光農園  
 （静岡市駿河区、2014年3月、戸井田撮影）  
 久能山の山麓一帯は「石垣いちご」の特産地として知られる。南向きの斜面に石垣を組み、陽光に対して直角に壟をつくって栽培する。かつては露地ものだったが、現在ではビニール栽培が行われている。

㊺草薙神社拜殿  
 （静岡市清水区草薙、2014年3月、戸井田撮影）  
 「草薙」の地名は、日本武尊が東征の折、敵の謀略によって野火に包まれたが、天璽靈剣（草薙剣）で周囲の草をなぎ倒し、猛獣をくい止めて九死に一生を得たという故事に因む。国の三種の神器の一つであるこの剣は、当社に祀られた後、熱田神宮に奉祀されたと伝えられている。







⑤⑥三保松原

(静岡市清水区、2014年3月、戸井田撮影)

その美しさから「日本新三景」「日本三大松原」の一つとされ、国指定の名勝となっている。「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の一部としてユネスコ世界文化遺産にも登録されている。



⑤⑦美保の松原から富士山を望む

(静岡市清水区、2011年1月、藤井撮影)

⑤⑧清水港

(静岡市清水区、2011年1月、藤井撮影)





⑤ 清見寺全景

(静岡市清水区興津、2013年11月、網撮影)

手前が山門で、後方に本堂をはじめとする重物の屋根がみえる。本堂の解体修理で「駿州大谷村瓦」と記されたヘラ書き椀瓦が発見された。

⑥ 清見寺山門大棟

(静岡市清水区興津、2013年11月、網撮影)

山門の屋根に葺かれた軒椀瓦をみると、ほとんどが清水瓦であることがわかる。



⑦ 由比宿「小池邸」全景

(静岡市清水区由比、2013年11月、網撮影)

⑧ 蒲原宿吉田家住宅と旧東海道

(静岡市清水区蒲原、2013年11月、網撮影)







⑬東名高速富士川 SA より富士川と富士市中心部を望む  
(富士市、2008年12月、藤井撮影)

⑭富士山本宮浅間大社  
(富士宮市、2014年3月、戸井田撮影)

富士山を御神体とする神社であり、山頂に奥宮をもつ。8合目以上の約385万 $m^2$ は社地となっている。全国1300の浅間神社の総本社であり、「富士山一信仰の対象と芸術の源泉」の一部としてユネスコ世界文化遺産にも登録されている。



⑮富士浅間神社拜殿に飾られた節供の菖蒲と蓬  
(富士宮市、2012年5月、藤井撮影)

⑯お宮横丁  
(富士宮市、2014年3月、戸井田撮影)

浅間大社前にある屋外店舗街。富士宮の名産品を売り、名物の「富士宮やきそば」を出す店もある。「富士宮やきそば」は、いわゆるB級グルメの草分けとして知られ、「B1グランプリ」において第1回、第2回と連続第1位に輝いた。





### ⑰湧玉池

(富士宮市、2012年5月、藤井撮影)

### ⑱白糸の滝

(富士宮市、2014年3月、戸井田撮影)

名水百選に選ばれた国の名勝、天然記念物。「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の一部としてユネスコ世界文化遺産にも登録されている。



### ⑲人穴浅間神社

(富士宮市人穴、2012年5月、藤井撮影)

祭神は木花咲耶姫命、源家康、藤原(長谷川)角行。建仁2年(1202)に、源頼家が人穴を探検させたと「吾妻鏡」に書かれている。その後、天正10年(1582)、藤原角行が人穴で修業を積み、悟りを開いたことで、富士講の聖地となった。富士講の信者は、富士登拝の前後に訪れる巡礼地であった。明治時代に社殿を建立。昭和17年(1942)には陸軍により、集落とともに社殿は強制移転させられたが、昭和29年(1954)に再び地域の氏神として社殿が建立される。

### ⑳人穴

(富士宮市人穴、2012年5月、藤井撮影)







### ①柿田川湧水群

(清水町伏見、2008年12月、藤井撮影)

柿田川は富士山に降った雨や雪溶け水が湧き出してできた川。大小約70か所の湧き間から湧出する水量は1日約100万トン。現在、清水町、沼津市、三島市、函南町、熱海市の飲料水として利用されている。流域は温帯性広葉樹林に囲まれ、動植物の宝庫になっている。

### ②貴船神社

(清水町伏見、2008年12月、藤井撮影)

湧水群の近くの高台に京都の貴船神社から分霊し、水の神を祀る。この地は、戦国時代に北条氏が造った泉頭城の西の丸にあたる。



2014/3/18

### ③柿田川

(三島市、2014年3月、戸井田撮影)

柿田川湧水群の豊富な水を集めて流れる清流。三島市には富士山の伏流水が湧出する地点が点在しており、さしずめ「水の郷」の感がある。柿田川は国の天然記念物。

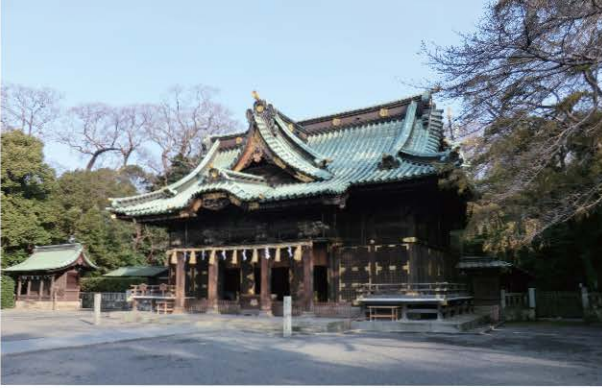
### ④蓮沼川の「ほたるの里」

(三島市、2014年3月、戸井田撮影)

湧水の町・三島には、三島駅からほど近いところにも蛍の住む清流がある。蓮沼川はその一つ。



2014/3/18



### ㊦三嶋大社

(三島市、2014年3月、戸井田撮影)

三島市街の一角にあり、伊豆国一宮である。写真の本殿は慶応元年(1865)の建立で、国の重要文化財に指定されている。

### ㊦楽寿園

(三島市、2014年3月、戸井田撮影)

明治維新で活躍した小松宮彰仁義親王の元別邸。現在は三島市の自然公園として開放されている。写真は小浜池越しに楽寿館を望むもので、雪解け前のこの時期は湧水期にあたり水は少ない。



### ㊦花の富士山

(三島市、2014年3月、戸井田撮影)

楽寿園内で見かけた花のモニュメント。「三島には富士山がよく似合う」。

### ㊦源頼朝・北条政子像

(伊豆の国市郷ヶ小島、2013年9月、胡桃沢撮影)







⑨伝堀越公方御所跡  
(伊豆の国市北条、2013年9月、胡桃沢撮影)

⑩葦山反射炉  
(伊豆の国市葦山、2013年9月、胡桃沢撮影)



⑪本立寺境内の江川太郎左衛門英龍像（葦山反射炉築造者）  
(伊豆の国市葦山、2013年9月、胡桃沢撮影)



⑫本立寺境内の江川家墓地  
(伊豆の国市葦山、2013年9月、胡桃沢撮影)



⑬沼津御用邸記念公園の沼津垣（沼津市下香貫島郷、2013年8月、藤井撮影）  
沼津周辺の浜の潮風を防ぐために用いられてきた垣根。旧沼津御用邸で多く使われたため、広く知られるようになった。箱根竹と呼ばれる細い籐竹を十数本束ねて、網代編にしている。



⑭三津の港  
（沼津市三津、2013年8月、藤井撮影）  
昭和7年（1932）1月から5月まで、渋沢敬三は三津で静養のため滞在した。その際、調査した古文書は、のちに「豆州内浦漁民資料」として発刊される。

⑮土肥の浜  
（伊豆市土肥、2008年12月、藤井撮影）  
左手に、江戸時代および明治から昭和にかけて探掘された土肥金山がある。







⑯松崎遠景  
(松崎町、2013年11月、網撮影)

⑰松崎旧岩科学校校舎  
(松崎町岩科、2013年10月、網撮影)



⑱旧岩科学校校舎玄関ポーチの層額と瓦屋根  
(松崎町岩科、2013年10月、網撮影)

⑲旧岩科学校「羽波」押印軒機瓦  
(松崎町岩科、2013年10月、網撮影)  
軒機瓦の平文様部上縁に「羽波」の押印がみられる。





### ⑩「伊豆文邸」全景

(松崎町松崎、2013年11月、網撮影)

松崎町を代表するなまこ壁建造物のひとつ。明治43年に建てられた呉服商の建物で、壁全体に施されたなまこ壁が美しい。

### ⑪「夢の蔵」全景

(松崎町松崎、2013年11月、網撮影)

松崎町主催の「なまこ壁の土蔵づくりプロジェクト事業」によって建造されたなまこ壁土蔵。多くの左官職人や地元のボランティアが参加し、なまこ壁の技術伝承だけでなく観光事業としても大きな成果をあげた。



### ⑫長礫石の石垣

(松崎町岩地、2013年8月、藤井撮影)

丈夫で細工がしやすく軽いため、屋敷の石垣や段々畑の石垣に使われた。岩地の長礫で採石されたために長礫石と呼ばれる。

### ⑬石部の棚田

(松崎町石部、2013年8月、藤井撮影)

標高120～250mの範囲に4.2ha、約370枚の水田が広がっている。文政年間の山津波のときに崩壊し、その後20年にわたって復旧した。昭和30年代には、約1000枚、10haあったが、社会の変化とともに耕作放棄が進み、ほとんどが原野化した。平成12年(2000)、地域の宝として棚田の復活に取り組んだ結果、4.2haが水田としてよみがえった。







⑭石廊崎権現  
(南伊豆町石廊崎、2008年12月、藤井撮影)

⑮石廊崎から伊豆諸島を望む  
(南伊豆町石廊崎、2008年12月、藤井撮影)  
灯台の向こうに見える横長の島は新島。



⑯石廊崎から伊豆諸島を望む  
(南伊豆町石廊崎、2008年12月、藤井撮影)  
左から、利島、新島、式根島、神津島が見えている。



⑰小稲のとら舞  
(南伊豆町、1972年9月、渡辺撮影)



⑩ 下田市街遠景 (下田市、2013年11月、網撮影)

⑪ 「旧松本旅館」全景  
(下田市原町、2013年11月、網撮影)  
幕末から明治初めに建築されたなまこ壁建造物。明治26年の網版画が残る。



⑫ 下田港  
(下田市、2008年12月、藤井撮影)

⑬ 下田港に水揚げされたキンメダイ  
(下田市、2008年12月、藤井撮影)







◎下田市白浜から伊豆大島を望む（下田市白浜、2008年12月、藤井撮影）



◎川奈の万灯  
（伊東市川奈、2001年10月、渡辺撮影）



◎海蔵寺のイルカ供養塔  
（伊東市川奈、1998年6月、藤井撮影）  
川奈ではイルカの追込み漁が盛んであった。供養塔は、昭和52年（1977）に住職の息子が重てた。

◎新井神社大祭り  
(伊東市新井、2001年1月、渡辺撮影)



◎新井神社大祭り (伊東市新井、2001年1月、渡辺撮影)







⑩音無神社のタブの木

(伊東市音無町、1998年6月、藤井撮影)

暖地性の常緑高木。中部以南に自生する。

⑪音無神社

(伊東市音無町、1998年6月、藤井撮影)

祭神の豊玉姫命の出産にちなみ、安産を祈る風習がある。無事に出産した場合は、底の抜けた柄杓を供える。なお、音無の森で源頼朝と北条政子は逢瀬を重ねた。



⑫道祖神

(伊東市新井、2013年8月、藤井撮影)

⑬盆棚

(伊東市新井、2013年8月、藤井撮影)



⑪ 関東大震災の津波石碑  
(伊東市川奈、1998年6月、藤井撮影)



⑫ 伊豆東浦路一里塚の松  
(伊東市宇佐美、2013年9月、胡桃沢撮影)

⑬ 宇佐美海岸から留田漁港を望む  
(伊東市宇佐美、2013年9月、胡桃沢撮影)







⑭来宮神社の大楠

(熱海市西山町、2007年8月、藤井撮影)

嘉永年間、熱海で大網事件が発生、その訴訟費用を捻出するため5本の大楠が切られた。現在残っている楠を切ろうとしたところ、白髪の老人が現れたため、村人は恐れをなして楠を切ることを中止した。この木は現在も神木として残っている。

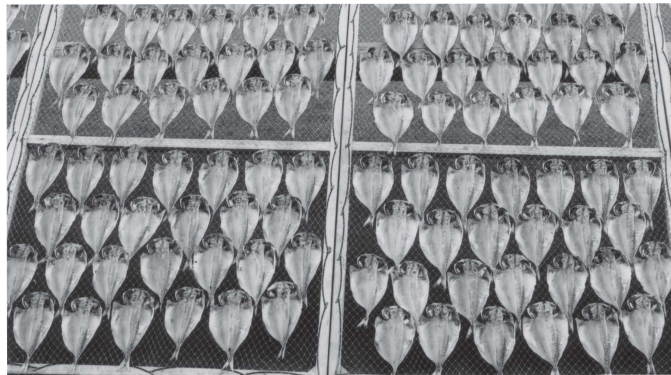


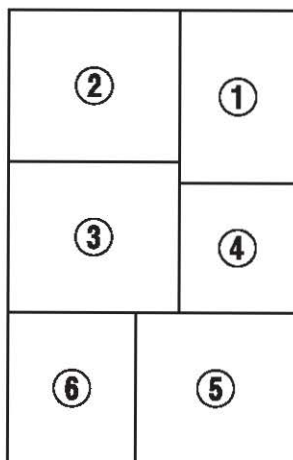
⑮伊豆山神社

(熱海市伊豆山、2007年8月、藤井撮影)

⑯アジを干す

(熱海市綱代、2013年9月、胡桃沢撮影)





#### 表紙

①浜松風上げ

(浜松市、1992年5月、渡辺撮影)

②茶畑

(牧之原市、2011年4月、藤井撮影)

③藤森の田遊び

(焼津市大井川町、1986年3月、渡辺撮影)

④富士川鉄橋を渡る新幹線から富士山を望む

(静岡県富士市、2013年3月、戸井田撮影)

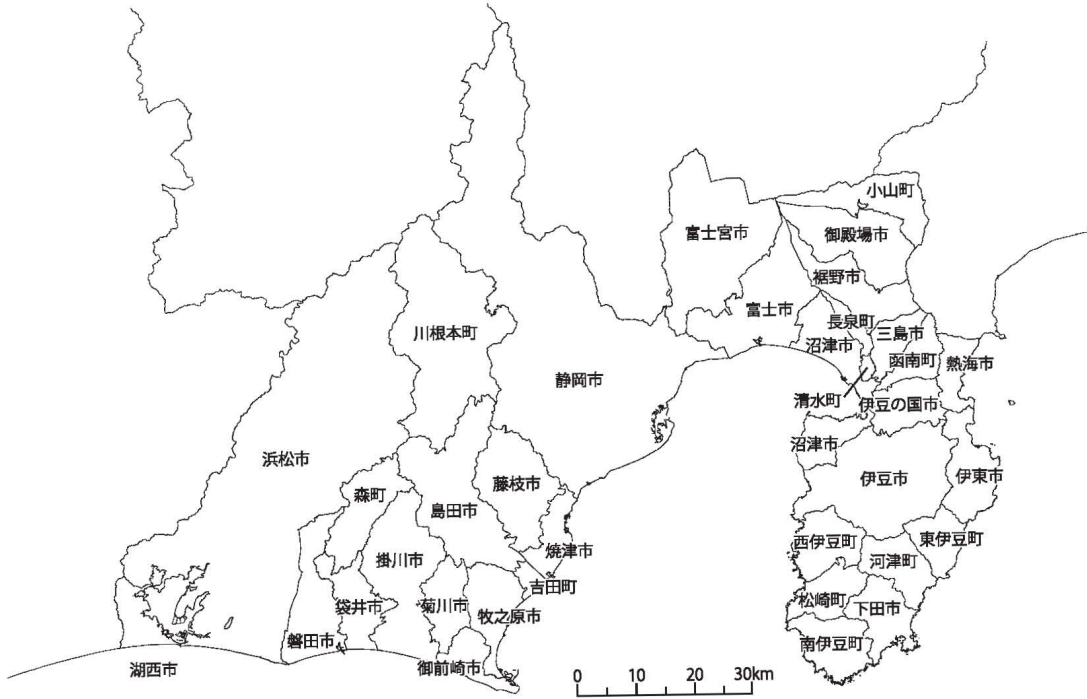
⑤「雑忠」鈴木忠吉家住宅全景

(静岡県下田市須崎町、2013年11月、網撮影)

⑥新井神社大祭り

(伊東市新井、2001年1月、渡辺撮影)





表紙・口絵写真 静岡県 の民俗……………

胡桃沢 勘 司  
戸井田 克 己  
網 伸 也  
藤 井 弘 章  
渡 辺 良 正

目 次

静岡県の民俗

大井川流域民俗語彙……………野本 寛 一 1

伊豆の水陸連携魚輸送——馬士と押送船——……………胡桃沢 勘 司 51

東海地方のなかの静岡県——さかいの民俗学——……………戸井田 克 己 69

伊豆のなまこ壁建造物群と清水瓦……………網 伸 也 109

静岡県のウミガメの民俗……………藤 井 弘 章 141

——御前崎市・伊東市における一五・六年前の調査をふまえて——……………



近現代における地域交通の展開

——南海高野線の存続と河内長野を関わらせて——

井田 泰人 281

書評と紹介

田畑久夫著 『鳥居龍藏のみた日本 ——日本民族・文化の源流を求めて——』

戸井田 克己 319

岩本由輝編 『歴史としての東日本大震災 口碑伝承をおろそかにするなかれ』

岩間 剛城 325

野本寛一・三国信一著 『人と樹木の民俗世界 ——呪用と実用への視覚——』

吉野 なつこ 333

近畿大学構内遺跡学術調査の紹介(一)

藤田 義成 339

付 録

民俗学研究所第二五回公開講演会 座談から見る柳田国男(要旨)

鶴見 太郎 343

執筆者紹介

投稿規程

350 347

# 静岡県の民俗



# 書評と紹介

---

民 俗 文 化 第 26 号

平成 26 年 7 月 31 日印刷

平成 26 年 7 月 31 日発行

編集・発行者 近畿大学民俗学研究所

〒577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

電 話 (06) 6721-2332

印 刷 所 近畿大学 管理部 用度課

---





近畿大学

KINKI UNIVERSITY